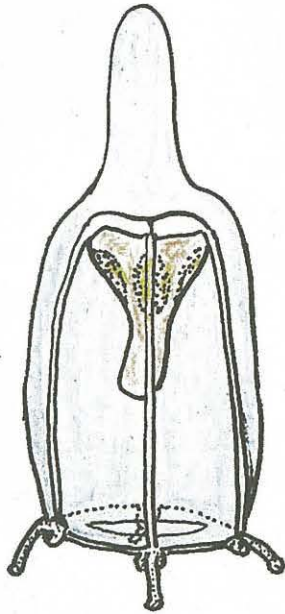


フチコブクラゲ



田辺湾から一度きり採取されたフチコブクラゲ(山田1983改写)

久保田 信

71

フチコブクラゲは、今から90年前に、たった1個体だけ田辺湾で採取された。この標本をもとに、内田亨先生が1927年に新種記載された。筆者は内田先生の孫弟子にあたるから相当古い物語となる。しかし、今に至ってもこ

の個体しか日本のどこからも採集されていない。珍種である。採集したのは、当時、大正時代に瀬戸臨海実験所に勤務した井狩二郎氏である。22年11月11日である。井狩氏は田辺湾のフランクトンサンプルからクラゲを取り出し、一つずつスケッチして内田先生に送っていたそうである。その一つがこのフチコブクラゲだった。この図は井狩氏が採集時に描いたものを、筆者の先生である山田真弓先生が描き直したものをもとにしている。筆者もこのクラゲをなんと

か再発見しようと、田辺湾だけでなく北海道から沖縄県まで日本全国で努力を重ねてきたが、まだ1個体も発見できていない。特徴ある姿なのでネットに入ればすぐ同定できるクラゲである。

数ミリの大きさの傘の上部に顕著な突起を持っているが、なんといっても和名が付けられたこぶを持つことが特徴である。こぶは4本の触手の基部にある。触手は短く先端が丸く膨れている。触手はもちろんだが、このこぶにも刺胞が含まれているので、攻撃防御あるいは餌取用の装置に違いない。触手の基部の外側には眼点を備えている。

胃袋は単純な形で、その先端の口に特別な構造は何もない。胃袋の上半分くらいの箇所に生殖巣が形成される。

珍種だが、外国からも採取されている。ベンガル湾のニコバル諸島、マダガスカル、オーストラリア東岸。ポリプは不明なままである。(京都大学准教授)

